



NO. 221

2011. 11. 15.

社会福祉法人 大阪市知的障害者育成会
(別名 大阪市手をつなぐ親の会)
大阪市天王寺区東高津町12-10
大阪市立社会福祉センターB1F
発行責任者 笹野井 庸夫
TEL 06(6765)5621 FAX 06(6765)5623
<http://city-osaka-ikuseikai.or.jp>

**全日本手をつなぐ育成会
第60回全国大会(東京大会)開催される
～ ご報告 ～**

第60回全日本手をつなぐ育成会大会
併催第45回手をつなぐ育成会関東甲信越大会に
参加いたしました。

東成支部(ハーモニー) 小泉 いと子

大会を振り返って
初日 11月 5日(土)

第1部は、「悲しみを乗り越え」というタイトルで被災地からの映像を交えての報告がありました。

スクリーンに映し出された映像は、3月以降今までに何度も目にした被災状況ですが、改めて天災のすごさを感じ、その恐怖感で心の中で何度も悲鳴をあげていました。

その余韻が残る中、第2部では、「絆を強め支えあい」復興に向けて育成会として支援を考える、と題しての発表がありました。いうまでもなく岩手県、宮城県、福島県の方々の多くの施設や家は津波で流されたりして、皆様は大変な思いをされておりますが、その中でも特に印象に残ったお話しをお伝えしようと思います。

岩手県手をつなぐ育成会 近江雅幸氏から「2週間近くサバイバルの状態、ひもじさと戦いながら死ぬかと思ったが、ボランティアの皆さんが食べ物を運んで来て頂いたときには神様に見えました。」

宮城県手をつなぐ育成会 鈴木治子氏より「両親を亡くされた利用者の方には24時間体制で支援を続け、心身ともに不安な気持ちでいっぱい痛々しい状況の皆さんに、暖かく寄り添うことで、なんとか少しずつでも元気を取り戻してもらいました。」

福島県手をつなぐ育成会連合会 太田行丸氏からは

「今後の支援に望みたいことは、①緊急時の人命救出現場での判断だけで即取り掛かれるようにする。②被災者の要求は、時間の経過と共に変化していくので、支援の方法も防災計画の中で、その点を具体的に盛り込む必要がある。③障がい者が在宅を望んだ場合にも、そのことに対する福祉サービスの位置づけをしっかりと支援が可能なものにする。」

全日本手をつなぐ育成会 久保厚子氏より「震災が大きすぎて当初何から始めたらよいか分からず、被災地各市町村の育成会への連絡をするにも、電話も使えずパソコンなどのメール機能などもダメになり、現場の状況把握も困難な中、一人一人の方から人伝いに確認してきました。」

あるお父さんが(この被災のなか、自分たちの生活ですらままならないのに、たとえお互いに連絡が取れなかったとしても、家族と暮らすより施設の中で居てくれた方が良かった。)とも話されてました。

第3部は「共に生きよう」というタイトルで 災害の経験を踏まえて障がい者・家族の安全、安心を考える構成になっており、宝塚市手をつなぐ育成会 松井美弥子氏と宮城県手をつなぐ育成会 遊佐久雄氏から発表がありました。

松井氏は阪神大震災の経験をもとに、「育成会会員同士の支えあいと同時に、地域の皆さんとのつながりの大切さを強く感じたこと(ご近所の方々のやさしさが何より嬉しかった。)」を発表されました。

次に遊佐氏より、「命をつなぐ・ニーズをつなぐ・ケアをつなぐことが共生共助の社会でのつながりとなり、生活を守ることとなる。東北の人は口下手で無口だがその一言にはとても底力がある。仲間と手をつないで共感し合い、怯まない強い心で継続していく。そして感謝するやさしい心を大切にして次の世代につないでいきたい。」と、力強くおっしゃる姿には私たちに勇気をいただきました。

1部から3部を通じコーディネーターを務められた新潟県手をつなぐ育成会 片桐宣嗣氏より、<次頁へ>